

月刊

ENGO

3月号

2013年3月1日

カトリック大阪大司教区ENGOプロジェクト

発行責任者：松村繁彦

連絡先：TEL：090-5258-5704

(平日 18時～21時)

FAX：06-7494-9845

e-mail: engo@osaka.catholic.jp

「震災2年経過」への想い

～これまでの2年間で振り返り、
これからの未来に思いを馳せる～

今月の3月11日で、東日本大震災が起きて2年目を迎えます。

この2年間で、大変多くの方々、現地に行かれボランティア活動をし、また現地までは行けなくとも、地元での献身的な支援活動が行われてきました。

これからも、私たちのできる支援活動を少しずつではあっても継続して行きます。

みなさまのご協力をお願い致します。

今月は、宮津教会（京都教区）の信徒である仁科浩さんにお話を伺いました。

仁科さんは震災当初から現在に至るまで時間を見つけて現地に行かれ、支援活動を行われています。支援を行うことによって自らの人生を見つめる機会を得たと述べられ、その思いが私たちに伝えられました。共に分かち合えたらと思い、いただきましたお手紙を以下に掲載いたします。

「私がおはじめて被災地を訪ねたのは、カリタスジャパン・ボランティアベースが各地で活動を開始してしばらく経った5月おはじめてでした。



津波に襲われた釜石市

2011年5月撮影



大船渡市沿岸の中学校

三階まで津波に襲われた校舎とがれきが集められた校庭

2011年9月撮影

何かできることは？ 必要とされることは？ それぞれの想いで集うボランティアが協力して働くことで、与える以上のものを受け取っている感覚がありました。それは支援活動を継続するエネルギーとなる心の栄養だと思いました。その後も訪問を重ね、いつの間にかこの活動が私にとって必要なことになってきていました。



遊具をつくっている風景 釜石ベースにて

2012年12月撮影

出会いの中で語られる言葉が、稀に自分に注ぎ込まれていく感覚を覚えます。その時の自分がかたくなな心ではなく、素直になっているのだと後で思います。普段の生活でかたくなに自己を主張するとき、返ってくるのは保身の貧しさです。相手の存在を自分の心に通すことがなかなか出来ません。

震災から2年経過しようとしています。「何とか生活は出来ているけど、依然将来が見えてこない。遠くから来てくれてありがたいねえ。」と困難を背負った人々は、いつも優しいまなざしで受け入れて下さいます。そしてその受け入れる行為が、その人自身を力強く前向きにしているのではないかと感じます。

これからも震災の傷がいたるところに見え隠れしながら人々の生活が続くでしょう。カリタスジャパン・ボランティアベースが出会いの相互作用でその傷に少しずつの癒しを与えていくことを願います。」



近所の子どたちが集まって遊んでいる風景
2013年1月撮影

継続的に支援活動をされている人は、おそらく仁科さんのように“与えつつ”も実は“与えられている”体験をされているのだと思います。

平和への相乗効果が被災地から多くの地域に広がることを願います。

現在も各ベースではボランティアが不足しています。みなさまの継続的活動をよろしくお願いいたします。

お知らせとお願い

“東日本大震災2周年 祈念の集い”
「30011つなぐ」を、3月10日の日曜日、サクラファミリア（大阪梅田教会）において午後4時から8時の間で行われます。

一人でも多くの方に参加していただき、学び・聴き・偲び・思う時を一緒に過ごしたいと思いますので、お時間のゆるされる方はどうぞお越しください。

また、被災地の復興にご尽力されている方々にこれからも支援の継続を行います。

どうかみなさまからの募金もお願いいたします。

郵便振替口座

口座番号：01110-0-7464

カトリック大阪大司教区

※通信欄に「ENGOプロジェクト」と記入

パネルの貸出しについて

この一年間、多くの方々にパネルを利用して頂きました。ご利用ありがとうございました。

これからも多くの方に利用して頂きたいと思っておりますが、パネルの内容は震災から約半年の間に撮られた写真をもとにして作られています。現在の復興状況よりも、当時の状況を忘れないことを大切にしています。その点をご理解くださいますようによろしくお願い致します。

ご利用ご希望の方はお気軽にご連絡をください。



(A3版 28枚セット)

なお、このパネルは東日本大震災2周年祈念の集い「30011つなぐ」の会場でも見ることができます。